

# 川崎市外国人市民代表者会議



KAWASAKI CITY  
川崎市

## ニュースレター No. 36

編集・発行：市民・子ども局人権・男女共同参画室 2009年3月31日発行

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25zinken/home/gaikoku/>

### オープン会議 みんなの声を代表者会議に！



2008年12月14日、高津市民館でオープン会議を開催いたしました。当日は強風、冷え込み、雨と天候に恵まれましたが、さまざまな分野から集まった日本人市民と外国人市民の約120名の方々が熱い思いを持って参加してくださいました。

オープン会議の目的は、われわれ代表者と市民との間に交流と対話を深め、彼らの市政や地域社会の問題に対する思いや意見を聞くことです。このことは外国人市民代表者会議にとっても、市民にとっても、各々の目標と活動を進めるためのよい機会になったと思います。オープン会議には全体会議と2つの分科会があります。参加者たちは、「教育と多文化理解」、「医療と共生生活」の2つのテーマを中心に活発で詳細な議論をいたしました。

会議終了後は交流パーティーを行いました。新しい友人づくりや、友人間の関係を深める場となりました。会議の場とはちがい、リラックスした雰囲気の中で、代表者と参加者とでより伸びやかな雰囲気では、代表者たちと参加者たちは、笑顔と素晴らしいアイデアを交換しました。（パレード ベルフェ）

### しみんまつり かわさき市民祭り

第31回かわさき市民祭りは11/1～11/3に開催されました。外国人市民代表者会議は外国人市民と日本人市民の交流を深めるために今年も参加しました。



世界に関するクイズでは、多くの子どもたちが参加し、わたしたちが母国から持ち寄ったささやかなプレゼントに喜んでもらえました。難しい問題も多かったのですが正解者が多く、お父さんお母さんも誇らしげに手をたたいていました。また国際交流パフォーマンスステージでは民族衣装体験では、われわれが持ち寄った各国の衣装を来場者に着てもらい、その衣装について説明したり、着方を教えたりしました。最終日の国際交流パフォーマンスステージでは、代表者や、地域の市民や子どもたちの歌やおどりを見てもらいました。多くの市民の方が見てくださり、熱烈な拍手をいただけました。

さまざまな文化を楽しんでもらいながら、自然に代表者会議の存在を市民に伝えられた事が一番印象的でした。  
(上田 馨霞)





だいひょうしゃかいぎ しんぎがいよう  
**代表者会議 審議概要**

だい かい だい にち がつ にち  
**第3回 第2日 (11月16日)**

きょういくぶんかぶかい  
**□教育文化部会**

しょうちゅうがっこう にほんごしどう  
**・小中学校の日本語指導について**  
 市の日本語指導等協力者派遣事業の派遣期間や地域の市民に日本語指導に参加してもらえないか議論しました。

こうこうしんがく こうこうせいかつ  
**・高校進学と高校生活について**  
 代表者の支援者としての経験などを踏まえて、海外にルーツを持つ児童生徒と高校進学や高校での生活について意見交換を行いました。

おとな にほんごしえん  
**・大人への日本語支援**  
 市民館などの識字学級で日本語支援が行われていますが、そうした場所に来られない大人の外国人市民の日本語支援について話し合いました。



だい かい だい にち がつ  
**第4回 第1日 (1月25日)**

きょういくぶんかぶかい  
**□教育文化部会**

こうこうしんがく  
**・高校進学について**  
 県や市が行っている施策を検討した上で、外国にルーツを持つ子どもたちが直面している問題について考えました。

しょうちゅうがっこう しえん  
**・小中学校への支援**  
 総合教育センターの担当職員を招いて、市の施策が行き届いている分野とそうでない分野について検討しました。また民間の学習支援など地域の力についても話し合いました。

しゃかいせいかつぶかい  
**□社会生活部会**

いりよう  
**・医療について**  
 「(仮称)川崎外国人医療支援システム」について引き続き議論。特に日本語が不自由な部会員の家族の出産や入院などの経験を踏まえて、日本語だけで病院を探すことの難しさ、患者本人の不安感など、実際にどのようなことが問題となるのか、話し合いました。

がいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎほーむぺーじ  
 ＊外国人市民代表者会議ホームページで詳しい議事録を読むことができます。

しゃかいせいかつぶかい  
**□社会生活部会**

いりよう  
**・医療について**  
 川崎に住む外国人市民を中心として利用しやすく役に立つような「(仮称)川崎外国人医療支援システム」について話し合いました。またすでに川崎区で行われている「かわさきくコミュニケーションボランティア」の概要と日本人でも誤解しやすい医療用語について調べました。

ねんど ねんかんすけじゅーる  
**★ 2009年度 年間スケジュール ★**

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
**★川崎市外国人市民代表者会議**

ばしょ: 川崎市国際交流センター じかん: 午後2時より午後5時まで

だい かい だい にち がつ にち だい にち がつ おか にち  
**第1回 第1日 4月19日(日) 第2日 5月10日(日)**  
 だい かい だい にち がつ にち だい にち がつ にち にち  
**第2回 第1日 6月14日(日) 第2日 7月12日(日)**  
 だい かい だい にち がつ にち だい にち がつ ほつ か にち  
**第3回 第1日 9月27日(日) 第2日 12月20日(日)**  
 だい かい だい にち がつ にち だい にち がつ にち にち  
**第4回 第1日 1月24日(日) 第2日 2月21日(日)**

＊どなたでも傍聴すること(聞くこと)ができます。ぜひ来てください。



おーぶんかいぎ がつ にち にち ばしょ: 高津市民館 じかん: 午後2時より午後5時まで  
**★オープン会議 11月29日(日) 場所: 高津市民館 時間: 午後2時より午後5時まで**

＊どなたでもご参加いただけます。みなさまと代表者との意見交換を行う開かれた会議です。



# オープン会議

# みなさまの声



オープン会議へのご参加ありがとうございます。みなさまの声は外国人市民代表者会議の審議に活かしていきます。いただいた声の一部をご紹介します。

また今回は市内各地の識字学級で代表者がオープン会議の紹介を行い、そこでも色々な意見や問題をいただきました。外国人市民にも、日本人市民にも住みやすい川崎を目指して、提言づくりに努めます。

・児童生徒へ日本語支援だけではなく、教科の指導も含めた学習支援の枠組みがあった方がよい。麻生区ではじまったボランティアと区の事業「あさお多文化サポートネットひまわり」に注目して欲しい。

・学校内で学習支援も行っているが、十分にはできない現実がある。今のところ学習支援が教育の場でも家庭でも、あまり重視されていない印象がある。

・日本人はお弁当をきれいにつくるなど、文化の違いを事前に知らせてくれると助かる。また中学校でも給食が用意されると家族は安心。

・多言語に翻訳できる端末が病院や薬局に置かれればよいと思う。

・日本語の微妙な表現（ずきずき痛む、しくしく痛むなど）にはデータベース化が必要なのではないか。

・119番など日本語がうまくない人がどうすればよいか、不安である。

・医療だけでなく相談全般で、ここにかければよいという多言語のホットラインがあると大変便利。

・日本では、みな日本語ができるという前提に立っている、日本語ができない人がいること考えてもらえると、ずっと住みやすくなると思う。



・ふれあい館のような多文化共生の拠点となるような施設が各地に必要。

・多文化共生事業も行財政改革の影響を受けているように見える自治体もあるが、川崎市にはこれまで通り進めてほしい。

・外国人登録法が変更されるが、代表者も関心を持って話し合ってみたらどうか

・区役所の窓口をさらに工夫して欲しい。中原区役所では多言語で標記されている、ほかでもそうあってほしい。



## 外国人市民代表者会議のホームページを見てください！！

昨年からの景気の問題や、外国人市民に関わる新しい法制度など、2009年は様々な生活に関わる重要な情報が出されることが予測されます。外国人市民代表者会議のホームページ (<http://www.city.kawasaki.jp/25/25zinken/home/gaikoku/kaigi/>) で、できるかぎりそうした情報を紹介するように努めます。ぜひ見てください。以下は現在紹介している情報です。

- ・定額給付金についてのお知らせ
- ・派遣・期間工として働く外国人の皆様へ

●便利メモ●日本語の学習について。川崎市では日本語の日常会話を無料で学ぶことが出来ます。午前のコースと夜のコースがあります。詳しくはお近くの市民館および教育文化会館、ふれあい館などにお問い合わせください。



だいひょうしゃ たぶんか きょうせい たいけん  
**代表者と多文化共生体験**

たい かい  
**第2回**

■ **インドネシアのじゃんけん**



「さいしょはグー、じゃんけんぽん」、みなさんこの言葉を聞いたことありますよね。日本に住む多くの方にとって、とても馴染みのあるゲームだと思います。これは「じゃんけん」と呼ばれ、英語では「Rock・Scissor・Paper (岩—はさみ—紙)」と呼ばれています。この岩ははさみに勝ち、はさみは紙に勝ち、紙は岩に勝つというゲームは、世界中で使われています。

インドネシアも同じです。じゃんけんに似たゲームがあります。しかし、他と比べてユニークで個性的です。

私たちは「スイー (SUIT)」と呼んでいます。インドネシアの人全員がこのゲームを知っていることを私が保証しますよ。なぜなら必ずマスターしなければならないゲームです、たとえ不思議な子ども時代をすごしてもね^\_^。

スイーのルールはほとんど日本のじゃんけんと同じですが、わたしたちはちがうシンボルを使います。インドネシアでは「アリ、象、人」です。象は人にとってあまりにも強く、人はアリには勝つことができます。一方、アリは象に勝つことができます。

人差し指を立てると「人」。親指を立てると「象」。小指を立てると「アリ」になります。

このゲームには深い意味があって、象とアリのお話に由来しています。お話の中で、アリは小さいので象にいじめられています。ある日、アリは象に反撃することを決心します。アリはとても小さく、そして早いので、象はなんでもできません。アリは象の目を攻撃します。ついに象は倒れこみ、アリに降参します。このお話は子どもたちに、えらそうにすることは、力ではないということを伝えています。おろかであったり、誰かの心を傷つけると、ひどい目にあうということです。

このゲームは楽しいだけでなく人生の教訓を学ばせてくれます。ぜひ今度スイーで遊んでみてください^\_^。

(モッハマド アスリ)

■ **多文化の国、ブラジル**



ブラジルは様々な国からの移民達がつくった多文化の国です。例えば、カーニバルはポルトガル人が持ち込んだ祭りが起源ですが、その中で踊られるサンバはアフリカのリズムが基になっています。食べ物もアラブやイタリア、アフリカが起源の料理など色々な味が楽しめます。その他にも、ヨーロッパ風の町も見かけることができます。昨年は日本人がブラジルに渡って100年の記念の年でしたが、この100年間で日本人もブラジルの文化に色々な影響を与えてきました。それらはみな、それぞれの民族が自分の国の文化や習慣を失わないように守り続けている中から、新しいものを生みだしてきたものです。

私の生まれた町でもアフリカ系やヨーロッパ系、アジア系の友達が沢山いて、その中で暮らすことは普通でした。18年前に初めて来日したとき、まわりに日本人しかいなかったことは逆にびっくりするものでした。そしてブラジルがグローバルな国だと実感しました。今では川崎市には120カ国のひとが住んでおり、日本も多文化の国になってきている気がします。これからも色々な民族の文化を理解しあって、日本人だけでなく外国人にとっても住みやすい町にしていきたいと思っています。

(中森 ジュリア みどり)

＜お問合せ＞ 川崎市市民・子ども局人権・男女共同参画室 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1

Tel : 044-200-2359 Fax : 044-200-3914 E-mail : 25gaikok@city.kawasaki.jp

代表者会議やニューズレターへのみなさまのご意見・ご感想をお待ちしています。